

夕月八廿月二

常磐每日新聞

定額一圓五角
 廣告料五圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社



泥 澤
長瀬生

(三)

良子ははつと驚いてその顔を盗み見た。彼は無言のままがちやりと茶碗を置いて背中に良子と坊やの視線を感じながらさし／＼と二階へ上つて行つた。正雄は泣きさうな顔をして母の肩に手を置いて立つてゐた。子供をこんなことで叱る等といふことは今までの彼には一度もなかつた事であつた。何故なら、良子はぼんやりと考へながら味のない飯を嚼んでゐた。

(四)彼の自殺の手記
 二階、書齋では先からじつと彼は机に肘をついて椅子に腰かけてゐた、電気スタンドが、彼の顔とそのわづかな周囲を照してゐた。暗い所には可なりの書籍が積まれてあつた。こゝに上つてから何時間たつたのだろうか。同じ姿勢で――頭髮に手を突込んで机に肘をついて――じつと前方を見つめてゐる彼であつた。前のスリ硝子にはぼんやりと、とがつかその顔の輪廓がありその後には先から又びし

よ／＼降り出した雨の音が絶えず聞える。果しない闇が続いてゐた。
 たれ下つた頭髪は眼のあたりを濡れやうな無気味な蔭を作つてゐた。鋭いその視線はそのくせ何、視覚も持つてゐない空洞の様を感じを與へるのである。
 何處からか、一匹の蚊とんぼが入つて来て電燈のまはりへぶ／＼言つてゐたが、やがてスリ硝子にはたりとつかまつてその長い脚を苦しうに運んで脚と脚との間に落ち込んでゐるやうな瘦せ、胸と小さな頭をおし上げやうとしゐた。よう／＼と動くそのぼんやりとした影は、奇怪な人やりとした影は、奇怪な人

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 明日の献立
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 【朝】バクトースト 半熟玉子 コーヒー 果物
 【晝】さつま芋御飯 清汁
 (豆腐)
 【晩】めざし 白菜なべ(白菜 かき貝)

間の誰もがまだ想像もしなかつた様な幻想的な動きを出鱈目な調子で踊り狂つてゐるのであつた。
 一步、二歩、三歩とは上り得ないで蚊とんぼは自身の重さにたへ兼ねてはたりと落ちるとじつと羽根を鳴

らしてゐたか、そが、そのまゝ敷居の上で動かなくなつてしまつた。彼の眼はじつとそれ注がれてゐた。
 雨中を爆進する汽車の重い響が雨音とたへ勝ちに聞えて来た。
 一つ取り出された便箋の上に、瘦せていたらしい算盤だこのある戸が一枚二枚と小さな字を埋めし行つた。下でかすかに一時か打つた
 良子よ、
 お前はいつまでも女學生だ。私はそれを答のようとするのではない。私は反つてそれを愛する。お前の中に私の過去がまだ生き、あるからだ。いつまでも女學生でゐてくれ、幾つもの現実がお前にぶつかり、通り過ぎた。しかしお前は女學生に現在ある。今後どんな現実があらはれてもそれを最後まで持ち続けることが一番お前にとつて幸福なのだ。私はお前にこんな事を云ふ積りではないのだ。今私はお前と二人の子供と借金を残して死なうとしてゐる。お前は私を卑怯だと云ふだらう。弱いといふかも知れない。私に私に卑怯だ。弱いかし私はそれをどうすることも出来ないのだ。

外科 内臓外科 院長 安齋
光線科 院長 安齋
新設
産婦人科 醫學士 黒澤
 廣 徹
 入院隨意△
安齋醫院
 平町 田町
 電話 四七五

御會葬御禮
 昭和十一年二月廿七日
 小名濱町 佐瀬ハヤミ
 親戚 佐瀬武一
 代總 吉田唯
 友會 木田磐
 松寮一壽

御會葬御禮
 昭和十一年二月二十七日
 男 阿部康雄
 親戚 阿部吉
 代總 草刈卯
 友會 藤山政
 關内 榮助
 神佛葬具
 平新橋 川本屋
 電話 一六三

喜多流謠曲と仕舞の
 お稽古をお奨め致します
 平町田町六九
喜多流 仕舞 白土會
 入會隨時
 電話一二七番

胃腸病性
 内科 胃腸病科
 花柳病科 性病科 皮膚科
門 專
松村醫院
 (番七〇一町南町平)
 夜間 診療

耳鼻咽喉科専門
 平町町(電話六九一番)
山内醫院
 醫學士 山内亨 吉
 病室完備 自炊便有

花環 神佛葬具
 盛花 久壽玉
 御弔燈 寶明燈
造花
 靈柩自動車
 平新橋 川本屋
 電話 一六三

議案調査に

二日間休會

多難の町財政に

町長の誠意反影

けふ平町の豫算町會開く

平町十一年度豫算町會は本廿八日午前十時から同町會議室に開かれ青沼町長の歳入出豫算の全般的説明あつた後四十九萬九千二百圓の老人なる豫算内容のため各議員の慎重なる調査を必要とする關係上僅かに中野氏提起にかゝる戸數割異議の辨明と議案の磐城高等女學校講堂正門建設費五百圓十年度分寄附の件を議決したのみで休會に入り三月二日午前十時より再會することになつた因に豫算總額四十九萬九千二百圓のうち

歳入面の税收入中制限外課税特別税戸數割の賦課額増額並に使用料及手数料の値上げに就いては相當の質問あるものと見られ従つて歳出方面の不急なる項目に向つて多少の斧鉞を加ふべき状態であるが結局多難の町財政に對する青沼町長の誠意を反影せる豫算面は過般の内示會に於ても多數の是れを首肯して居る事として別段の波瀾はないものと観測さる

臨時部に於ける新税事業費は何れも當面の緊急事であり市制施行を控へての公會堂建設費八萬圓(内

教員俸給の

不拂を督促

郡下七ヶ町村の

國庫負擔金差押

縣主催の教員俸給支拂ひ督促協議會は三月十日平町に於て開會三ヶ月以上未拂ひの郡内七ヶ町村を招集す

らず今回義務教育費國庫負擔金割當が決定して近く交付される見込みのため此の交附金が町村に到着するころを見配つて一齊に整理斷行を督促せんとするもので前記負擔金交付を以つて郡下教員俸給未拂村は一應整理されることと思はれる

町村吏員

自治講習

來月半町に

石城郡下各町村吏員の自治講習會は來月下旬半町に縣主催で開催されるが講師は達林地方課長富澤事務官會

原料高から

一割値上げ

醤油醸造組合決議

暴騰の爲め三月一日から現在の販賣値段を一割値上げる事に決定した

穀物検査

百俵の増加

平穀物検査所の二月中に於ける新米検査は廿八日締切らるが本日迄の検査数は三千俵を出荷も過ぎた爲め前月の二萬俵よりは非常に減じし居るが昨年同期よりは百俵の増加である

工業組合申請

平町

福宜町河田梅吉氏外三名は平町鐵工機械製造販賣業者の統制及び價格の統一を計る爲め平町工業組合の設立方を縣へ申請す

鑛區税不納

許可を取消

東京市京橋區西紺屋町二朝鮮炭礦株式會社出願許可された内郷村地内三十二萬五千五百七十坪の石炭試堀は鑛區税不納のため此程取消された

會計検査

平土木監督

所並に夏井川改修工事々務所の十年年度會計検査は廿七日より三日間縣より加藤屬外一各が來郡して行はれてる

綴方研究教授

平第

三小學校にては本廿八日十時から二年二組生の綴方の研究教授を行ひ午後三時から職員批評會を開いた

平町人事

回出生

△南町二九當時内郷村大字内町字水ノ出浦井直一氏長男直止さん
△福宜町五佐々木徳三郎氏二女秋子さん
△南町 九當時内郷村大字

内町字水の出 浦井直一氏(二四)神谷村大字上神谷字上 杉川美和子さん(二三)

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

食事・喫茶・酒場・を兼ねた

佛蘭西 料理

ザロン

平・田町 電三五二番

磐城セメント會社特約店

金屋

磐城平町五丁目 電話九九九

良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷はの生命なり

和漆器と家具は 和全屋

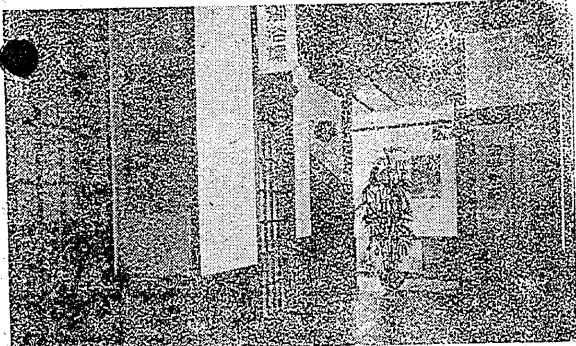
平町五丁目 電話四〇五番

小瀧へ!!

- ◇宿泊料 1.50 2.00 2.50 (御滞在は左記料金にて中食料をふくまえます)
- ◇日歸浴席料 .20
- ◇自炊料 .50-.80 入場料・室料 夜具料一切
- ◇料理一定食 .80 1.00 1.50 (その外品料理洋食)
- ◇湯 効神(リウマチス、胃腸病、痔疾、婦人病、逆上、中風、肥肝病)
- ◇諸設 備球臺、高級浴場、洗車所、水部、洗式便所、小動物園、タクシー
- ◇名物 川魚料理(うなぎ、鯉、蜂蜜羊かん)

●女中數名入用●

常磐線湯本驛 小瀧鑛泉 瀧の湯 御旅館 御自炊 電話 (小名濱) 103番



重病の旅客に

赤井驛員の親切

郡山の乗換迄気を配る

磐越東線赤井驛員が全部で重病患者を何にこれと親切に介抱し無事に帰宅させた美談がある——喜多方町の鈴木平三郎さんは去る十九日

歩行不能

の重病な弟を連れて赤井驛に駆け付け同驛發午前十時二十分郡山行列車に乗車しやうとしたが患者はホーム迄も仲々歩けず困惑して居るのを同驛では驛員が全部で手を貸し驛備付の

軽便車に

患者を乗せてホームに運び更に郡山での乗換に差支ないやう

にと郡山驛に電話して擔架の用意と付添に警手の手配迄依頼してやつたので

鈴木兄弟

はその懇切な手配に依つて無事帰宅し左の如き禮状を寄せて来た

重病患者同伴御驛より乗車の際は格別なる御便宜を相與へ被り御懇切な御扱ひにより御陰様にして無事豫定の時間に帰宅仕候間御休御下さい是れに貴驛の御懇情の賜と深く感謝仕り候不取敢書中を以て皆々様に御禮申上候

萩原氏の演説に

間違ありと

石川町長が聲明

『町民諸君に告ぐ』を配布

湯本町では過般の選挙戦の期間中十九日夜比佐昌平氏の政見發表演説會席上萩原義雄氏が行つた演説内容中温泉口地所問題及び平小鐵道湯本廻り請願運動に關して被説した所説に對し事實と全く相反し町民中町當局者及び町區會議員の行動に不信の所爲ありと疑ふもの

もあるを憂慮し石川町長は『町民諸君に告ぐ』と題する三ヶ條からなる聲明書を一般に配布萩原氏の所説は全く事實無根のであるとしてその誤點を發表した

轉車臺に故障

平機關庫の轉車臺は機械に故障を生じたので三月三、四

水産講習

卒業生は全部就職決定

小名濱水産講習所は来月最初の卒業生十八名を就職戦線に送り出すが全部就職決

身邊危険を感じ

係官を欺く

高飛びの無頼漢

去る四、五日前の深更ふりしき雪を衝いて半著に飛ひ込み無頼の生活から避生したいと願ひ出た相馬郡八幡村大字成出生の野木光カ

に就いて自供せる点に不審を抱いた齋藤司法主任が嚴重に取調べた處

本人が自供した宮城縣鹽釜町蒲鉾業金玉屋方、前借詐欺以前に郡山市内氏名小詳商店より前後二回に亘つて金銭登録器を窃取した外二、三のコン泥の餘罪も自白した

今晩は晴明日も同様

今晩の部

後六〇〇 子供の時間

漫劇 透明聯隊 漫書

後六二五 講演「醫者と醫者でない醫者」甲賀三郎

後七三〇 趣味講座「鳥原尺草一揆 板澤武雄

後八〇〇 室内樂 東京絃楽四重奏團

後八三〇 義太夫(中將) 柳雪貞の段 竹本小土佐

後九〇〇 講演「天の投網」寶井忠琴

追究中

江名沼も

市場を新設

先進地視察

江名沼は小名濱町營魚市場の實現 刺戟され同じく市場を新設すべく像てより財源調査委員會で調査中であつたが取敢ず加澤漁業組合長外七名の委員を擧げ先進地の視察を行ふと

磐女生の見學

磐女生は今廿八日淡路、中西兩教諭に引率され平郵便局を見學した

郡聯合青年總會に

讀賣新聞外報部次長が講演

石城郡聯合青年團春委總會は来月四日午前九時から第一小學校講堂に開かれ豫算及び決算其他各種事項の打合せを行ふが講師として讀賣新聞社外報部次長鈴木東民氏が來平すると

分割問題

圓滿解決を

當局に請願

後九三〇 時報ニユース

明日の話題 氣象通

番組像告

明日の部

前七〇〇 基礎ドイツ語

前七三〇 武内 造

前七三〇 朝の修養(道)

元禪師(御生涯)(終)

山上曹源

前八〇〇 衛生メモ

前八三〇 家庭講座

「小學校卒業生」夜明の

地學に就く 一大谷恒郎

後九〇〇 芝居囃子(音)

分劃問題の圓滿なる解決を計るため役場當局に請願する處あつた

元女給が

情夫と駈落ち

郡山市新町三三七元カフエー女給津藤チヨウ(三三)は情夫の郡市大和田秀壽(三三)と手を取つて廿七日夜逃走平方面に入り込んだ形跡あるため廿八日平署へ捜査方願ひ出た

素晴しい率で

乾繭器が普及

補助金交付奨励の結果

郡内養蠶實行組合の簡易乾繭器設置は縣の補助金交付奨励の結果、素晴しい普及率を示し現在二百十六個になつて居り昨年當初と比較して一躍百三十七個の普及を見た譯であると

将棋大會

郡内の同好者

郡内將棋同好者よりなる互樂會では東京日日新聞後援の下に來月一日午前九時よ

上田病院

平町 南町 電話二二九番

錢で一等から十等まで賞品を贈呈し飛入りを歡迎する



瓦解の設

（著上原） 悟道軒圓玉（作） 丸尾至陽（畫）

五九 五百兩だす

大阪屋の番頭藤八は入り

「且耶大變でございます

イヤあなた不在だとはい

ひましたがそれでは主人に

かいつて貴様に申し開ける

が、今度外國人を打ち拂ふ

ことにしたのがその入用に千

兩出せとこう申します」

庄「さうか、そんなことを

いつたかえ」

と大阪屋の入庄兵衛はび

つくりして

庄「その二人は何者だえ」

藤「浪人者でございませすな

千兩出せ金を出さねば奥へ

踏み込んでみなごろしにす

ると申します」

庄「恐しい奴が来たな、大

丸新道の先生のところへ知

らせろ、かういふ時の役に

立てるために、月々生活費を

送つてゐるんだ、浪人者が

二人来て無法なことを申し

て困つてゐますといつて呼

ん来たな」

藤「へえかこまりました」

「すぐ手代は寛げ出した

間もなくそれへ来たは大丸

新道に劍術の道場を開き居

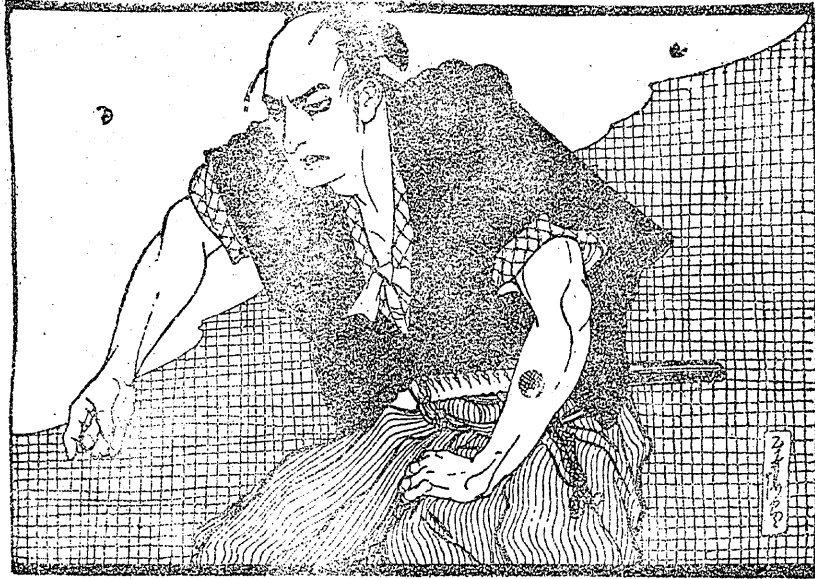
る九州浪人の齋藤嘉平次、

その他門人三人、何れも強

がつてゐる人々

嘉「御主人、お手代衆から

うけたまはつたが浪人者が
參つて千兩かせと申し居る
さうだな不埒至極」
庄「先牛實に困りますよあ
なたの御威光でこゝは五兩
か十兩でおさまりますうや
弟にござら」



お骨折をお願ひ申します」
嘉「宜い承知いたしました拙者
が談判いたしてくれる」
こゝで嘉平次は門人をつ
れて店へ来たが、二人武家
は茶を飲みながら店の者に
冗談をいって笑つてゐる。こ

武「ハ、ア劍屋か」
嘉「劍術屋とは奇態なこと
を承はる」
武「劍術を賣物に致劍術屋
と申した、俺は青木彌太郎
と申して小碓から天下の
直參、またこゝに居るは水

石炭
コークス
豆炭
阿部石炭店
電話三十七番

かまぼこ 製造

お土産

お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

の時嘉平次は二人をグルリ
と取りまき
嘉「各々は何者か」
武「何んだと、何者かとは
何んだイヤさ誰に申すこと
だ、天からも降らず地から
も生ぜず、母親の体から出
た人だぞ、貴様は何んだ刀
を持つて居るやうでは武士
らしい武士ならば禮儀は心
得て居るはずだ、まづ名乗
れ」
嘉「イヤ、拙者ことは一刀
流の劍術指南を致す齋藤嘉
平次と申しこれに居るは門
弟にござら」

戸の浪士で岡田盟と申す者
だ、今日當家へ參つたはこ
の度事を擧げるその入用と
して、千兩借用いたすため
だ」
嘉「イヤその儀はうけたま
はつたが何分主人は不在と
て番頭や妻の一存にてこの
大金を差出すことはならら
ぬ、よつて今日はおだやか
にお引き取り下さい」

したぞ、青木彌太郎でござ
る」
庄「ハ、ア青木彌太郎が來
ましたか」
嘉「こゝは金を持たしてお
歸しなさい、あいつに見込
まれた以上は空手で歸すこ
とはなりませんさりとて千
兩は出しかねませう、五百
兩でこゝは無事におさめま
す」
庄「困つたな、しかし先生
あなたの手で追ひ歸すこと
になりませぬか」
嘉「彌太郎では——アア兎
も角も五百兩出さなさい、
あなたに不正なことで儲け
た金だ、五百兩取られて罪
が消えれば安いものでござ
るぞ」
説きつけられてよんどこ
ろなく五百兩をばへ出した

皆様の足？

尼子タクシーへも豆タクが入
りました
御立關から立關へ 迅速簡便
是非御利用を
市内 三〇錢
市外 四割引
流線型セダン
大型貸切バス
宮行 直通は二丁目尼子自動車部よ
り發車いたします
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

しもやけ家傳藥

是マデしもやけハ暖カニナラネバ
治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ
一日二三回二三日ノ御使用テくす
れたしもやけモ忘レタ様ニ完全ニ
治リマス。

現今ノ塗藥トハ異リ卷法ニヨリ根本カラ除去スル
モノデアリマス。
しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス
爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデアリ
マセン、又くずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同
時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ増シタリ致シマスガ
此藥ハ無刺戟ノ中心地良イ卷法ニヨリ皮トノ血
行ヲ良クシ幼キ御子様リニモ喜バレ如何ニくずれ
たしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス
是非一度御試シドサイ。

東京丸井邦實堂
平町一丁目
福島兩縣特約 伊藤石炭店
茨城兩縣特約 伊藤石炭店
電話三九九